

## 11. 耳鼻咽喉科

### 1. GIO(一般目標)

一般的な耳鼻咽喉科疾患に対して、原因や病態を理解し、基本的な診断、治療ができる能力を修得する。また、救急外来における耳鼻咽喉科緊急疾患への対応能力を身に付ける。

### 2. SBOs(行動目標)

(1) 基本的な耳鼻咽喉科外来診療の手技を修得する。

- ① 耳鼻咽喉科患者に対し、適切な問診をとる。
  - ・ 主訴から疾患を推測する。
  - ・ 鑑別診断のために効率的な質問をする。
  - ・ 既往歴、家族歴、アレルギー、妊娠などの必要な情報を逃さない。
  - ・ 患者、家族に対し、やさしく丁寧に接する。
- ② 耳、鼻、咽頭、喉頭を観察する。
  - ・ 額帯鏡を使い自由に光を当てる。
  - ・ 耳鏡、鼻鏡、舌圧子を正しく持ち、患者の負担なく挿入する。
  - ・ 鼻咽喉ファイバーを正しく操作し、患者の負担なく挿入する。
- ③ 検査の実施、評価する。
  - ・ 必要な検査を適確にオーダーする。
  - ・ 単純X-P(耳、副鼻腔、鼻骨など)の読影をする。
  - ・ CT(中耳、副鼻腔、頸部など)の読影をする。
  - ・ 聴力検査を実施し、結果を評価する。
  - ・ 平衡機能検査を実施し、結果を評価する。
- ④ 適切な診断のもと、必要な処置、治療をする。
  - ・ 診断した根拠とその疾患について、わかりやすく説明する。
  - ・ 必要な治療とその選択枝について、わかりやすく説明する。
  - ・ 簡単な処置、処方をする。

(2) 実際に各疾患の診療を行う。

- ① 急性中耳炎、急性副鼻腔炎、急性扁桃炎に対し、正しく診断し、適確な治療を行う。
- ② 慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎、慢性扁桃炎に対し、正しく診断し、手術適応も含めた適切な治療方針を決定する。
- ③ アレルギー性鼻炎に対し、正しく診断し、適切な検査、治療法の選択をする。
- ④ 鼻出血の出血点を正しく診断し、適切な止血処置をする。
- ⑤ 外耳道、鼻腔、咽頭の簡単な異物を摘出する。
- ⑥ 喉頭、気管支、食道の異物に対し、正しく診断し、適切な摘出方法を計画する。
- ⑦ めまいに対し、中枢性か末梢性かを正しく判断し、適切な治療方針を立てる。
- ⑧ 急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍に対し、緊急入院の必要性を理解し、適切に対応する。

(3) 入院患者の診療に参加する。

- ① がん患者の治療計画を理解し、患者の病態を把握する。
- ② 手術患者の治療計画を理解し、適切な術後管理をする。
- ③ 耳鼻咽喉科手術の手順や器械の使い方を理解する。

- ④ 麻酔医、看護師、MEと協調する。
- ⑤ 最終的には、術者として扁桃摘出術の執刀をする。

### 3. LS(研修方略)

- (1) 外来
  - ① 指導医の外来に付き、診療の実際を学ぶ。
  - ② 指導医の監督の下、実際に新患者に対し診療を行う。
  - ③ 症例カンファレンスに参加する。
  - ④ 嚥下チームカンファレンス、ラウンドに参加する。
- (2) 検査室
  - ① 聴力検査の実際を見学し、検査を自ら行なうことができる。
  - ② エコー下吸引細胞診の実際を見学し、症例により自ら検査を行なう。
- (3) 病棟
  - ① 担当医として入院患者を受け持ち、主治医(指導医、上級医)とともに治療に参加する。
  - ② 指導医の指導の下、入院診療計画書などの書類を作成する。
  - ③ 毎日回診を行い患者の状態を把握し、治療方針を考察し、指導医と相談する。
  - ④ 病棟カンファレンスに参加する。
- (4) 手術室
  - ① 主に助手として手術に参加する。
  - ② 研修後半に、指導医の指導の下、術者として扁桃摘出術の執刀をする。

### 4 評価(EV)

1. 自己評価:PG-EPOCにて当科研修における各評価項目を自己評価する。PG-EPOCに経験した症候、疾病・病態を入力する。
2. 指導医による評価:指導医はPG-EPOCにて研修のフィードバックをしながら評価を行う。
3. メディカルスタッフ等による評価:指導者は依頼を受けた者よりPG-EPOCに入力してもらう。
4. ローテート科への評価:PG-EPOC内のローテート科の評価を入力する。
5. 指導医への評価:PG-EPOC内の指導医等の評価を入力する。
6. 退院サマリー及び外来サマリーの評価:各自で入力したサマリーを上級医が評価し、フィードバックしてもらう。

週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	検査、処置 手術 学童診	検査、処置 学診 嚥下検査 嚥下カンファレンス	検査、処置 手術(手術室)	検査、処置	検査、処置 学童診